ご活用ください！ 大雨・降ひょうに対する農作物の技術対策

台風などの強風や大雨、降ひょうによる農作物被害の未然防止と軽減のため、技術対策をまとめましたので、今後の備えとして参考にしてください。

台風などの強風や大雨に対する技術対策

共通

- 豪雨に備え、排水路の点検・整備を行い、ほ場の排水対策を徹底する
- 作物により防風網を設置するなど、強風に備える
- パイプハウスなどでは、フィルムの破れ、支柱、支線、ターンバックルなどを点検・補修し、必要に応じて筋交いを入れるなどして補強する
- 台風通過後は、病害虫の発生を防ぐため、作物に付着した土砂などを洗い流すように薬剤防除を行う
- 必要に応じて中耕・追肥を行い、育成の回復を図る

水稲

- 台風通過時の強風や通過後に高温・強風が懸念されるので、天候が安定するまで深水管理を行う
- 冠水や浸水した場合は、いったん速やかに排水する。その後、登熟の進行状況に応じて適宜間断灌水を行う
- 倒伏が発生した場合、穂発芽の発生が心配されるため、溝切り等を行ってほ場の乾燥を早め、熟期ムラを生じた場合は、刈り分けを行う
- 早刈りした場合は籾水分が高く、高温による急激な乾燥は玄米品質を低下させるので、籾水分が25％程度になるまでは送風のみで乾燥する

麦類

- 浸水したほ場は、速やかな排水を図る
- なびいて倒伏した場合は、収穫時に刈り分けを行う等、良品生産に努める

大豆

- 事前に排水溝を排水路につなげるなど、排水対策を点検しておく
- 冠水や浸水した場合は速やかに排水する。長時間にわたる浸水は根腐れを起こすので、まくら地に溝を切って早急に排水する
- 泥水や倒伏で莢が汚れた場合は、病害虫防除の際に洗い流すよう丁寧に薬剤散布を行う

露地なす

- 強風に備え、V字仕立ての支柱や枝の誘引などについて点検・補強する
- V字支柱が強風により傾いている場合は、株を傷つけないように引き起こし、補強を行う
- 停滞水に伴う根の活力低下が青枯病、半身萎凋病等の発生を助長するので、速やかに排水する
- 台風通過後は、褐色腐敗病等が発生しやすいので、速やかに薬剤防除を行う
- 風雨でキズなどが発生し商品価値が低下する果実は早く摘果し、草勢の回復を図る

ねぎ

- 台風通過後の停滞水の温度上昇は、根腐れおよび軟腐病等の発病を助長するので、速やかに排水する
- 収穫期に達しているほ場では、高温多湿による軟腐病の被害が拡大する前に、ほ場での作業が可能になり次第、速やかに収穫・出荷を行う。その際、病株の混入は商品性を著しく損なうので、厳選に努める
- 土寄せができる状態のものは、倒伏防止のため事前に土寄せを行う。ただし、湿害に伴って軟腐病や白絹病の発生が見られるほ場では、暫く土寄せや追肥は避ける
- 天候が回復次第、軟腐病・白絹病・小菌核腐敗病等を対象に速やかに薬剤防除を行う

ブロッコリー、キャベツ

- 地床育苗および定植したほ場では、停滞水の速やかな排水に努める
- 台風通過後は風雨によりべと病・黒腐病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う
- 天候が回復後、ほ場に入れるようになったら、早めに中耕を行い、土壌の通気性を確保する

にんじん

- 収穫期を迎えているほ場では、速やかな排水対策を講じる
- 収穫中のほ場では、しみ腐病や割れ等の被害根を混入しないよう厳選出荷に努める

施設きゅうり・トマト

- 台風通過後の急激な湿度低下による葉焼けを防止するため、施設の換気は徐々に行う
- 施設の密閉や多湿によりきゅうりでは褐斑病、べと病、トマトでは疫病等が多発しやすいので、天候回復後速やかに薬剤防除を行う
- ハウスが浸水した場合は、排水溝を設置し、速やかな排水に努める

ほうれんそう、こまつなど軟弱野菜

- 葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤防除を行う

果樹

- 収穫できる果実は事前に収穫する
- 棚や支柱、網などを補強し、上下の揺れを少なくする
- 落下した果実は速やかにほ場外へ搬出する
- ぶどうの葉、枝、果実に損傷が発生した場合は、晩腐病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う

花植木

- 強風に備え、あらかじめフラワーネット、マイカー線、固定杭などを点検・補強しておく
- 台風通過後は、強光による日焼けを防止するために寒冷紗等で遮光する
- 倒伏した株は引き起こして株元を軽く押さえ、噴霧器等で付着した土を洗い流すよう薬剤散布を行い、病害の発生を予防する
- 破損した茎葉は病害の発生源となることから速やかにほ場外へ搬出する
- 浸冠水した施設、資材等は必要に応じ消毒を行う

飼料作物

- 冠水したほ場では、速やかに排水する
- 飼料用トウモロコシが倒伏した場合、収穫適期である黄熟期まで20日以上前（乳熟期より前）であれば先端の起きあがりを待ってから収穫・貯蔵を行う
- 土砂の混入はサイレージ発酵の品質低下を招くので、収穫時には混入しないよう高刈りをする。

降ひょうに対する技術対策

なす

- 茎葉の損傷が少ない場合は、損傷の軽微な側枝や葉を残しつつ、強い摘葉は極力避けて、草勢の回復を待つ
- 新葉の展開や草勢の回復が見られない場合は、速効性肥料で窒素成分で10ａ当たり2kg程度の追肥を行う
- 気温の上昇に伴って、病害虫の発生が懸念されるため、薬剤散布を行う

きゅうり

- 茎葉の損傷の著しい場合は、損傷の軽微な葉を残して摘葉を行う。過度の摘葉・摘芯は樹勢を低下させるので、新しい葉の展開を待ってから行う
- 気温の上昇に伴って、病害虫の発生が懸念されるため、薬剤散布を行う

ねぎ

- 茎葉を損傷した株は7～10日程度で出葉して回復するので、当面は、べと病、黒斑病を対象とした薬剤散布を行い、回復を見てから追肥等を行う
- 軟腐病や白絹病の発生が予想されるため、ほ場に入れるようになったら、中耕または土寄せ前に薬剤を株元に散布して予防する
- ほ場に入れる状態になったら、明きょ等排水対策を行う

スイートコーン

- 倒伏した場合は、下側になった子実の充実が悪くなるため、可能な限り株を引き起こして土寄せを行う。その際、葉面積を確保するため、摘葉や徐けつは行わず草勢の回復を待つ

えだまめ

- 茎葉の損傷を受けたもので、収穫、出荷までに日数がかかる場合は、細菌病等の発生が予想されるので、アブラムシの防除と同時に薬剤散布を行う
- 草勢回復を図るため、10ａ当たり窒素成分で1kg程度の追肥を行う

こまつな・ほうれんそう

- 茎葉の損傷が著しく、収穫、出荷が見込めないものおよび発芽間もなく今後の生育が見込めないものについては、栽培を打ち切り、播き直しを検討する

ブロッコリー

- 花蕾ができているものは薬剤の散布を行わず、損傷部分を整理し、早期に出荷する
- 花蕾が小さい場合は、薬剤散布を行い、病害発生を予防する

キャベツ

- 出荷間近なもので被害の軽いものは、出荷時に丁寧に調整を行い商品価値を落とさないようにする
- 損傷が軽く、収穫までに日数を要する場合は、細菌病類の発生が懸念されるので、アブラムシの防除と同時に薬剤の予防散布を行う

農薬の使用にあたっては

- 各農薬のラベル表示により、各作目ごとの使用時期、総使用回数、希釈倍率等を必ず確認すること
- 周辺作物への農薬の飛散に注意すること

問い合わせ／大里農林振興センター農業支援部技術普及担当（☎526・2210）、または農林課（☎581・2121内線402）へ。